

浄心寺だより

発行
浄心寺門信徒会

郵便番号 714-0081
笠岡市笠岡 2065
電話 (0865) 62-2623
FAX (0865) 62-2595
振替 01260-9-13760
<http://joshinji.suki-ari.net/>



「み法を味わって」(哭)

青色青光 2

自らの「いのち」を輝かすためには自らが自らの「いのち」のもち味、自らの「いのち」の色を出しきるしかないので。

どれほど他の人の色をうらやみ、他の人の色をまねてみても、「いのち」が輝くことはありません。

自らが自らの「いのち」を輝かして生きる日暮らしを実現したいと思うのは、生きとし生きる者すべての願いでしょう。

しかし悲しいことに、私たちの住む社会には、自らの「いのち」を輝かせて生きる人をけん制し、邪魔するものが多く横たわっています。

私たち自身の心の上で考えますと、ねたみ、嫉み、嫉妬というものがそれにあたるとも知れませんが、なんといっても一番問題になるのは、私たちの他の「いのち」を見る目です。

私たちは、赤いもち味の「いのち」を赤い「いのち」と見、白いもち味の「いのち」を白い「いのち」と、そのまま見る目をいつの間にか失ってしまっています。

藤田徹文『聞光力』より

報恩講法要

十二月六日(土) 十三時半より

講師 三原市教専寺 福岡義朝 師

法宝物 虫干し法座



虫干し法座が七月十七日、十三時半よりつとまりました。
 今年は暑さが厳しいため法物は本堂でお披露目されましたが、法座は礼拝堂で開きました。
 『讃仏偈』をお勤めの後、ご法話を拝聴。ご講師は倉敷市福江の西方寺住職、幡多哲也師でした。
 お経の最後に唱える回向句「願以此功德、平等施一切、同発菩提心、往生安樂国」を中心にお話しいただきました。
 意味は「願わくばこのお経を読んだ功德によって、他の人々も私

ました。念仏の教えを庶民にも分かちやすく親しんでもらいたい、という聖人の思いが伺えます。
 阿弥陀さまの光は燃える炎のようには私たちを照らし、救いの王であることから、光炎王仏と呼ばれます。そして地獄、餓鬼、畜生の三悪道の闇をさまよっているかのような私たちに、ほのかな明かりを届けてくださいます。この、供養に値する方にお任せしましう、という意味です。
 時にはひねりのきいたクイズで一同の興味を引きながら、一言一句丁寧に解説して下さいました。
 時折雨の降る、蒸し暑い日でしたが、よいお聴聞となりました。
 と同じように平等にすべて、教えによつて救いを得て、同様にさとの心を起こしますように」。
 平等という点では、すべてのいのちを平等に見ることのできない私たちです。相性の良い人悪い人、好きな人嫌いな人、私たちは自分の都合で多くの人を選び分けてしまします。阿弥陀さまの救いは、そうした選り好みのない、どんな人をも対象としたものです。
 食事後、食器を片付けようとしたときの「そのままでいいよ。私がやるから」「ありがとう」という

やりとりは、阿弥陀さまが私たちに「そのままでいいよ」と言ってくださり、私たちが「なまんだぶつ」とお応えするのと同じです。
 誰にでも開かれた救いが阿弥陀さまの救いであり、「俱会一処」の「ともにまた会える世界」が生きる上で支えとなるのです。
 時おり雨の降る蒸し暑い日となりましたが、快適な礼拝堂で集中してお話をお聴聞することができました。

秋季彼岸会・永代経法要つとまる



ようやく酷暑の収まった九月二十五日(木)、十三時半より秋季彼岸会および門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

一同で阿弥陀経をお勤めした後、ご法話を拝聴。講師は今治市大三島町、万福寺の浅野執持師でした。

親鸞聖人の作られた御和讃の、

仏光照曜最第一

光炎王仏となづけたり

三塗の黒闇ひらくなり

大応供を帰命せよ

についてお話しいただきました。

和讃とはことばに節をつけたもので、聖人が幼少の頃から流行していた「今様」という歌い方をし

ました。念仏の教えを庶民にも分かちやすく親しんでもらいたい、という聖人の思いが伺えます。
 阿弥陀さまの光は燃える炎のようには私たちを照らし、救いの王であることから、光炎王仏と呼ばれます。そして地獄、餓鬼、畜生の三悪道の闇をさまよっているかのような私たちに、ほのかな明かりを届けてくださいます。この、供養に値する方にお任せしましう、という意味です。
 時にはひねりのきいたクイズで一同の興味を引きながら、一言一句丁寧に解説して下さいました。
 時折雨の降る、蒸し暑い日でしたが、よいお聴聞となりました。
 と同じように平等にすべて、教えによつて救いを得て、同様にさとの心を起こしますように」。
 平等という点では、すべてのいのちを平等に見ることのできない私たちです。相性の良い人悪い人、好きな人嫌いな人、私たちは自分の都合で多くの人を選び分けてしまします。阿弥陀さまの救いは、そうした選り好みのない、どんな人をも対象としたものです。
 食事後、食器を片付けようとしたときの「そのままでいいよ。私がやるから」「ありがとう」という

川柳
 唐辛子口っぱいにして話す
 藤井智史

除夜会・修正会



大晦日二十三時四十分ごろより除夜の鐘を撞きます。引き続き本堂にて、新年のおつとめをします。どうぞお参りください。

やさしい仏教講座

第32回 8月23日(まとめ)

『道綽禅师』

正信偈の道綽禅师について、「道綽決聖道難證、唯明浄土可通入、萬善自力貶勤修、円満徳号勸専称」の個所をみていきました。

ここの意味は「道綽禅师は、自力修行の道ではさとりを開くのが難しいことは決定的であり、ただ極楽浄土「を信じる教え」のみが「さとりへ」と通じうる、と明らかにされました。よろずの善行「を積んでさとりを開こうとする」自力修行では修める甲斐はないと、完全な徳を備えた「阿弥陀さまの」名前を、ひたすら称えることを勧められました」です。

当時は南北朝時代から隋にかけての、戦乱や飢饉の続く厳しい時代でした。親鸞聖人当時の日本にも似た状況で、浄土教の教えは民衆の大きな救いとなったことでしょう。

『養老孟司』

『バカの壁』で有名な養老孟司さんの話をみていきました。

『平家物語』の「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」です

が、鐘の音は物理学的にはいつも同じように鳴るのですが、それが違って聞こえるのは、人間がひたすら変わっているからです。『方丈記』に「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」「世の中にある、人とすみかと、またかくのごとし」とあるように、万物は絶えず流転しているのです。

人の側に立つて見れば、「知る」ことによって世界が変わって見えることがあります。例えばガンの告知によって桜がきれいに見えるようになった、というように。これは桜が変わったのではなく、自分が変わったのです。知るといのはそういうことなのだ、と。

浄土真宗でも、死後の極楽という世界を信じることによって、今の生き方が変わってくる。死んで終わりではなく、その先には会える世界がある、それによって今頑張れる、ここにこそ信仰の価値があるのです。



『お仏壇について』

浄土真宗のお仏壇は、亡くなった人が帰って行かれた世界（極楽浄土）を表わしたものです。「亡くなった人が住む家」とか「個々の亡くなった人々を祀った場所」ではないのです。あらゆる命あるものが帰っていかれた世界を表わしているのです。祖先に手を合わせる場所として、また、自分の行く先を思う場として構えるのです。したがって、一族に一つではなく、住居ごとに置くものなのです。

現世では自分、他人と区別して生きている私たちですが、彼岸の仏さまの世界はそんな区別のない、大きないのちの世界なのです。



子ども食堂

はじまる

「浄心寺ニコニコデー」が7月25日に初回を迎えました。保護者同伴での参加もあり、多くのお越しがありました。

流しそうめんをしたり、工作をしたり、宿題をしたり、カードゲームをしたりと、それぞれ思い思いの過ごし方をして、18時の鐘の音とともに終了となりました。

毎月25

日に礼拝堂にて、無料で参加できますので、お誘い合わせ、事前に参加申し込みをしてからご参加ください。

やさしい仏教講座
令和8年の予定

第35回	2月18日(水)
第36回	4月22日(水)
第37回	6月18日(木)
第38回	8月26日(水)
第39回	10月5日(月)
第40回	12月18日(金)

門信徒の広場

地区委員さん登場



大久保地区
横山 泰造 さん

笠岡高校近くの古い町並みの続く大久保地区十一戸を担当されています。

昔は幼稚園児から高校生までの通学路として朝夕には大混雑だったそうですが、今では子供たちが少なく、寂しくなりました。年輩

の方が多くなり、十年も経てば住人がなくなるのではないかと。

学生時代は球児として甲子園を目指し、また熱烈なタイガース党で、今年のタイガースの優勝は万々歳だと喜んでおられました。

現在三代目として印刷業を営み、「浄心寺だより」にも創刊号から携わって下さっています。

地区委員を受けてはや二十年、まだまだ動けるので続けていきたい、と元氣にお話し下さいました。

地区委員さんの交代

みどりが丘A地区

(前) 田方 肇さん
(新) 樋口千津子さん

田方さんには平成二十五年よりお世話になっていました。深く感謝申し上げます。

生江浜地区総代(迎西、一、二区)

(前) 赤田 範経さん
(新) 北村 勇さん

赤田さんには平成二十年より地区総代をつとめていただきました。長年にわたるご尽力に感謝いたします。

昼食後はテラリンピック。班ごとに得点を競いました。

夕食後にはキャンプファイヤーをしました。暗いお寺の境内で焚き火をたいて歌を歌ったりゲーム

サマースクール開催!!



七月二十二日、サマースクールが開催されました。笠岡、里庄、金光の小学校より三十七名が参加しました。三次市の善徳寺、長谷川憲章先生と憲寿先生、庄原市正専寺の小滝世雄先生と世信先生が指導に来て下さいました。

十時に開会式をしたのち、4班に分かれて近くの商店に買い出しに行きました。買ったのはくん製を作るための食材で、ソーセージ、ちくわ、ベーコン、チーズ、とうもろこし、グミ、ポテトチップスなど思い思いの食材を買い、くん製にしました。



還 浄 (げんじょう)

(敬称略)

鉄村	圭子	6	24	大井南
廣安	貞夫	6	29	鴨方町
那須	健治	6	29	大 宜
浅野	福司	7	3	大島中
藤原	正	7	4	旭が丘
田片	稔	7	9	金光町
藤井	潔	7	27	吉 浜
大石	節子	7	27	大 磯
高橋	シゲ子	8	3	福山市
高田	冬子	8	7	正寿場
藤井	尚志	8	16	横浜市
長安	早苗	8	20	倉敷市
守安	美子	8	21	生江浜
猪原	久子	8	24	緑 町
福家	孝子	8	29	大 磯
前川	津弥子	9	7	横 島
長谷川	好範	9	26	井原市
浅野	友助	10	9	岡山市
高田	一美	10	11	生江浜
櫻井	信男	10	11	茂 平

をしました。最後に花火をしてから、閉会式、解散。

子供たちは盛りだくさんの一日に、興奮さめやらず帰途につきました。夜はぐっすり眠れたことでしょう。

子供たちの食事やおやつは、仏教婦人会の方々が調理して下さいました。

平和のつどい

備後教区



備後教区主催の平和のつどいが十月八日十三時より、福山市の神辺文化会館で開催されました。

教区内から多くの門信徒や僧侶が参加。当寺からは松田勝由、高田泰紀両氏と住職が参加しました。

全戦争犠牲者追悼法要として音楽法要で正信偈を唱和したのち、福山市内海町の那須英信師によるご法話、次いで奈良の住職、三浦明利さんによる音楽法話「平和のうた」を聴きました。

三浦さんは若いころバンド活動

やさしい仏教講座

第33回 10月3日(まとめ)

『道綽禅師』

正信偈の「三不三信誨殷懃、像末法滅同悲引、一生造惡値弘誓、至安養界證妙果」をみました。

「道綽禅師はたくさんのお信者と信心を丁寧に説き、「釈尊の」教えの滅びる像法や末法の時代で添ってくださいます。一生悪事をはたらく者も「阿弥陀さまの救いたいという」願いの対象です。やすらぎの「極楽」世界に到達し、「救いという」素晴らしい結果を

得られます「と説かれました」

道綽禅師の時代は激しい戦乱の世。多くの人が殺し、殺される時代でした。人々が心の救いを求める中、道綽禅師は「死んでも阿弥陀さまの極楽浄土に生まれてゆく」という教えに出会い、それを伝え、広まり、多くの人々の心が救わ



をしており、二十五歳で住職を継いだ後も音楽活動を続け、プロデビュー。浄土真宗や仏教の教えに通じる歌詞も多く書かれていました。ギターやピアノの弾き語り、オリジナルソングから「さとうきび畑」「ふるさと」、幼児向けの体操ソング、果てはノリノリの恩徳讃まで、趣向を凝らしたナンバーが続き、美しく力強い歌声に魅了されました。



れました。

この「個人の心の救い」こそ、宗教本来の役目なのです。浄土真宗はまさにこれを説く教えです。

他宗派の教えでは、僧侶が修行してさとりをめざし、その僧侶に、亡くなった人を仏の世界に導いてもらう。生きている者の救いではなく、亡くなった人の救いを説くものがあります。これは仏教本来の姿ではありません。同じ仏教でも、中身が大きく違ってきます。

『牛乳石鹸』

同じように見えて中身が違う、という例で石鹸を挙げました。有

仏婦清掃奉仕

九月十四日(日)朝七時半より、仏婦会員総出で清掃奉仕を行いました。お彼岸に向けて本堂や庫裏、境内が見違えるようにきれいになりました。



人間というブランドに漬される

藤井智史

名な牛乳石鹸には赤箱と青箱があります。実は香りが違うだけでなく、全く別の商品とのこと。成分、泡立ち、大きさ、発売時期も21年違いです。

そのため、肌質によって合う合わないがあります。よく見極めたものです。

『お仏壇の荘厳』

今回は、お仏壇のお飾りの名前をみていきました。お飾りはたくさんあり、土香炉、ろうそく立、花瓶(かひん)など二〇を超える仏具の名称を確認しました。

次回はお飾りのそれぞれについて詳しくみていきます。

笠岡を歩く 〜歴史散歩(6)〜

長安圭一

定兼彌九郎の碑

笠岡駅の東、八軒屋踏切を渡り南に進むと、雲碩庵跡に出る。ここから雲碩庵に沿って古城山への登山道がある。これを登ると山頂への道と分かれ、少し行くと巨大な石碑が目に入る。これが浜仲仕の一方の長として活躍した定兼彌九郎の顕彰碑である。



碑文を書いたのは笠岡町役所の吏員、山本勝三郎で、鬼勝の異名を持つ一方、生花池坊の師範をとめ、かたわら文芸にも造詣の深い風雅の士でもあった。その碑文全文を誌す。

定兼彌九郎の碑(訓読)

君、幼名百太郎、考は彌九郎、妣(亡き母)は金藤氏、後、父の名を襲う。人となり任侠なり。然れども家、貧なりて庸となる。かつて斎主の信書もち小寺塾に至り、先生の講史に会う。窃聴するに鶏口牛後の言あり。感ずるに身に較ぶるところ、筋力あるをもって角抵(相撲)を学び、大いにその技を窮めんと欲し、拮据すること二年、

大正十年三月 山本勝三郎 併書

本堂のトイレが

新しくなりました

新しく快適だと評判です。ぜひご利用ください。



五月に改修工事を始めた本堂縁側のトイレですが、すでに工事が終わり使用いただいています。和式と洋式の便座が一つずつありますが、洋式二座になったが、

令和8年(2026年)年回表

年回忌	往生年	主な出来事
1周忌	令和7年	韓国のユソンニョル大統領罷免
3回忌	令和6年	トランプ大統領2期目の当選
7回忌	令和2年	新型コロナウイルス感染症が世界的に流行
13回忌	平成26年	ロシアがクリミア併合
17回忌	平成22年	小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
25回忌	平成14年	日韓サッカーワールドカップ開催
33回忌	平成6年	マンデラが南アフリカ共和国初の黒人大統領に
50回忌	昭和52年	横田めぐみさんが北朝鮮に拉致

新春のつどい

一月三十一日(水) 正午より

参加費 2500円

恒例の新年の互礼会です。文化箏同好会の箏の弾き初めにはじまり、カラオケや飛び入りの出し物等、それぞれの得意芸が披露されます。恥ずかしがり屋の方は見物を十分に楽しんでください。どうぞ誘いあわせ、ご参加ください。



申込締切りは一月十五日。

川柳

水の味忘れたころに薬飲む

藤井智史

編集後記

秋気いよいよ深まりましたが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

七月の虫干し法座、サマースクール、お盆法要、秋季彼岸会永代経法要等のご報告と、今後の報恩講法要、やさしい仏教講座、除夜会、新春のつどい等をご案内する第一五三号をお届けします。

寒さに向かう折、お身体大切に。

(釋賢大)